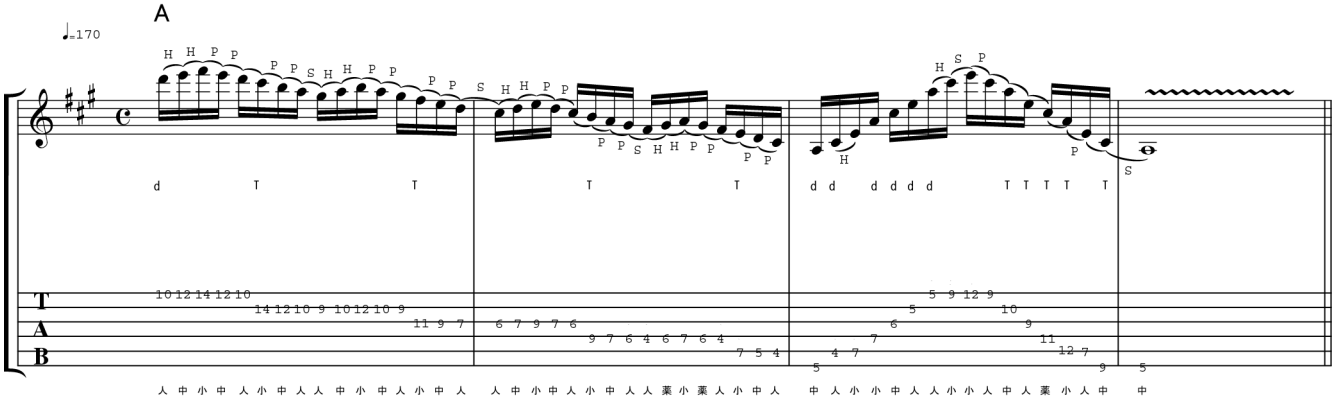
＜楽譜や解説はAcrobat Readerで拡大して見る事が出来ます＞



＜リッチーコッツェン風ノン・ピッキングレガートフレーズ攻略法＞

・レガートで流麗に弾くためのテクニック

リッチーコッツェンのフレーズの特徴はとにかく「滑らかな」事です。これはアラン・ホールズワースの影響が強いと僕は思いますが、リッチーのフレーズはアラン程フュージョン的なものではなく、あくまでもブルースやR&Bに良く見られる「ブルーノート・フレーズ」が中心になっていますが、たまに譜例で見られるようなハンマリング＆プリング、スライドを多用したレガートフレーズが見られます。リッチーコッツェンはポイズンやMr.Bigでのイメージが強いかもしれませんが、デビューしたときは譜例よりももっと難易度の高いレガートフレーズをガンガン弾きまくっていて、むしろ「ステイーブ・ヴァイ」的な印象が強いです。リッチーコッツェンの奏法面でのポイントは「ノンピッキング奏法」と呼ばれるものですが、これは簡単に説明すると「左手でのタッピング」です。要は「いきなりハンマリング」すれば良いんですがリッチーコッツェンはなんとアコースティック・ギターでも譜例のようなフレーズを楽に演奏することができる程左手のハンマリング・プリング・スライドが正確＆強力です。模範映像の右手を見ていただけると解りますが、僕も最初の一音以外は１小節、２小節目とも一切ピッキングしていません。全て左手だけで演奏していきます。譜面の「T」と書かれているポイントが左手タッピングのポイントです。３小節目ではかなり左手タッピングが多用されていますが、これについては「スウィープ・ピッキング」の所で解説したいと思います。左手を鍛えるにはハンマリング・プリング・スライドの各基本技術を最初から見直して生音でも音が十分に鳴る位まで鍛えなければいけません。ピッキングできないから左手だけで弾いているのではなく、「レガートなタッチ」が欲しいからあえてそうしているのです。ここを理解するのが左手タッピングをマスターするコツと言えます。

・スウィープ・ピッキングをキメるコツ

テクニカルなソロ！と言えばポピュラーなテクニックってスウィープ・ピッキングですよね。しかし実際にスウィープを上手く決めるのはなかなか難しいです。
要は連続でダウンピッキングやアップピッキングをすれば良いんですが、エコノミー・ピッキングとの違いはスウィープは主に「ブロークン・コード」を弾くために使われるので弦移動がエコノミーに比べて４弦から１弦まで移動したりと多いのです。譜例は６弦から１弦をフルに使ったスウィープになっていますが、ポイントは「スウィープもオルタネイトの延長線だと思って弾く事」です。スウィープフレーズになるとオルタネイトの時と違って、ピックの角度を１弦側に倒してしまったりと「スウィープ用のピッキングフォーム」にしてしまう方が多いですが、これでは滑らかにオルタネイトからの移行が出来ませんし、結果的にアドリブへの対応も弱いものになってしまいますので、僕はあまりピック・アングルを変えずにピッキングしていったほうが良いと思います。それにはピックを持つ右手に力が入っているとピックが弦につっかかってしまいますので、右手はとても軽くピックを持つようにしましょう。また、ダウンのスウィープは得意なんだけどアップの時にどうもタイミングが合わない、という方もたまにいらっしゃいますが、そういう方は譜例のように「左手タッピング」を使用してアップスウィープの代わりに使うと良いと思います。リッチーコッツェンを始めとして、トニー・マカパイン等もこの奏法を多用しますが、ポイントは「スウィープのポジション」になります。つまり、ブロークン・コードの１弦から６弦に返ってくる時は「バレー」や「ジョイント」があっては左手タッピングができませんので、そういうポジションをとらないようにしておけば左手タッピングを鍛えれば比較的簡単にアップスウィープの代わりに実践で使えるようになります。譜例の３小節目３拍目～４拍目がそれにあたりますが、ポイントはブロークンコードはあくまでも単音のソロなので音が和音にならないように一音ずつ切って演奏するということです。
また、５弦の１２フレットから７フレットのプリングはリッチーコッツェンの良く使うポジションですが、左手のストレッチがなかなか大変ですよ！

・ライブで確実にお客さんを盛り上がらせるギターソロの方法

ジミ・ヘンドリックスやイングヴェイ・マルムスティーンのライブビデオを見ると、右手を高らかに上げてお客さんにアピールしながらギターソロを弾いたりしています。
僕は高校生の時にその映像を見て、「凄い！なんで弾いていないのに音が出てるんだ！」と感激した記憶がありますが、この正体は「左手タッピング」です。
左手タッピング時は右手はやることがありませんから、鍛錬を積んだ人であれば、ジミ・ヘンドリックスやイングヴェイのようなパフォーマンスも可能になるわけですね。
これはライブで盛り上がりますよ！ただし「ノイズ」を出さなければの話ですが。右手を高らかに上げるということは例えば１弦を左手タッピングで演奏したとしても２弦～６弦は完全な「ノーガード」になるわけですから、正直ライブではかなり「ビビる」と思いますよ。
「ノーガードでビビらない方法」に関してはレイ・セフォーにでも聞くしかないでしょうね。（笑）

・リッチーコッツェン関連おすすめ曲

ネイティブ・タン「RICHIE'S ACOUSTIC THANG」（ポイズン）
Mother Heads Family Reunion「Reach Out I'll be There」
ゲット・オーバー・イット「エレクトリファイド」(Mr.Big)